

平成31、令和元年度 農産園芸研究課課題一覧表

品目	研究課題名	内 容	研究期間	担 当
水稻 大豆	主要農作物優良種子生産管理	水稻、大豆奨励品種の原種・原原種の供給と奨励品種決定のための品種選定試験及び有望品種の栽培法を検討する。	H10～	作物
水稻 麦類	植物調節剤の適用性試験	水稻の新除草剤・生育調整剤及び麦類等の新除草剤について、農薬登録のため効果と薬害を検定するとともに本県における雑草防除指針の策定に資する。	S39～	作物
藍	タデ藍における青色色素高濃度化技術の開発	タデ藍の高色素栽培方法を確立するとともに、高色素品種の育成を行う。また、収穫後のタデ藍からの効率的な色素原料の製造方法(沈殿藍製造方法)を確立する。	H30～	作物 (スマート)
水稻	「とくしま米」ブランドの創出による水田農業の活性化	新たな食味を持つ本県オリジナル品種を育成する。また、「あきさかり」の良食味生産の栽培技術を確立し、特A取得に向けた技術的支援を行う。	H30～	作物
雑穀	遺伝資源の保存	雑穀類の遺伝資源を維持保存する。	H25～	作物 (野菜花き) (スマート)

品目	研究課題名	内容	研究期間	担当
イチゴ、トマト	産学官連携による革新的施設園芸技術開発事業	施設園芸の発展を図るべく、アグリサイエンスゾーンを中心とした徳島大学等との連携を図るとともに、環境制御による生産性向上等の実現に向けた技術開発を行う。	H30～R1	スマート農業 野菜・花き
藍	タデ藍における青色色素高濃度化技術の開発	タデ藍の高色素栽培方法を確立するとともに、高色素品種の育成を行う。また、収穫後のタデ藍からの効率的な色素原料の製造方法(沈殿藍製造方法)を確立する。	H30～R1	スマート農業
レンコン	レンコン新品種「阿波白秀」の早期出荷作型向け栽培技術の確立	「ハウス栽培」は、篤農家の温度管理と収量の関係を計測し、指標となる温度管理を明らかにする。「トンネル栽培」は、定植に必要な種レンコンの植付け本数やカリ肥料の追肥方法を検討し、適正な栽培方法を検討する。生産者向けの栽培マニュアルを作成する。	H29～R1	スマート農業
イチゴ	イチゴの輸送性向上技術の開発	イチゴの果実硬度向上技術を「栽培」「収穫後管理」「流通環境」の複合的側面から確立することで、県産イチゴの輸送性を改善し、さらなる販路拡大に貢献する。	R1～R3	野菜・花き
イチゴ	イチゴ新品種の栽培技術の確立	品種登録出願予定の新品種について、適正な栽培管理を検討し、栽培マニュアルの策定を行う。また、交雑育種に加え、ゲノム情報を活用した効率的な育種方法を検討し、高機能なイチゴ品種を育成する。	H29～R1	野菜・花き スマート農業
サツマイモ	新「なると金時」ブランド品種の育成	最近の消費者ニーズに対応した食味(粘質系で甘い)で、なると金時と同様に砂地畑へ適応性の高い品種を目標に交配選抜を行ない、最終選抜では立枯病抵抗性を評価し、良食味で粘質系の「なると金時」新品種の育成によるブランド力向上を図る。また将来のニーズ開拓に向けて、砂地畑に適応性の高い有色(紫、カロテン等)サツマイモの育種素材を開発する。	H29～R1	野菜・花き
サツマイモ	サツマイモ特性検定試験・系統適応性試験	九州沖縄農研および作物研育成系統の立枯病抵抗性検定、本県砂地畑での適応性検討を行う。	H21～	野菜・花き
作物・野菜	遺伝資源の保存	藍、野菜、花き、山菜等の遺伝資源を維持保存する。また、県の育成品種を保存栽培する。	H25～	野菜・花き スマート農業
ニンジン	簡易施設向けICTシステム利用による地域ブランド野菜産地の強化	トンネル春夏ニンジンにおいて、ICT機器を活用し、トンネル内環境を測定、このデータに基づいたニンジン生育に最適なトンネル換気マニュアルを開発する。また、ICT機器を活用し、トンネル内環境情報と植物生体情報を取得し、実用的な出荷時期、出荷量予測技術を開発する。	H29～R1	スマート農業
レンコン	収穫後品質の向上と機能性を活かした加工品の展開による国産レンコンのブランド力強化	国産レンコンの高い品質を維持するために、生レンコンの表面殺菌及びパッケージングによる長期保蔵技術を実証する。ポリフェノールなどの機能性成分を多量に含む系統をコンソーシアムで維持する多数の遺伝資源から効率的に選抜する技術を実証する。	H28～R1	スマート農業

品目	研究課題名	内 容	研究期間	担 当
ミシマサイコ	ミシマサイコを核とした複合経営モデルの開発	薬用作物の国内生産拡大に向け、中山間地域の耕作放棄地等へミシマサイコを導入する上で課題となる収量増、発芽促進、病虫害雑草防除等の新技術を開発導入し、野菜等との複合経営による収益性向上効果を検証する。	H28～R2	野菜・花き
サツマイモ	青果用かんしょの省力機械移植栽培体系の確立	サツマイモ苗挿苗機の改良と新しい育苗方法の開発により、青果用かんしょの機械移植栽培体系を確立し、実証する。これにより、育苗から移植までの労働時間を、慣行栽培と比較して20%～30%削減する。	H30～R4	スマート農業 野菜・花き
ほうれんそう	簡易施設を用いた収益性の高いほうれんそう周年作付体系の開発	定年退職者や高齢農業者が「ほうれんそう栽培」に取り組みやすくするため、ミニパイプハウスを活用し、ほうれんそうの品質が低下する高温期の品質向上技術、栽培期間が長くなる厳寒期の生育促進技術を開発し、周年作付体系による収益性の高い経営を可能にする。	R1～R3	野菜・花き
ニンジン	トンネル春夏ニンジンにおけるICT栽培管理支援システムの開発	トンネルニンジン栽培において、換気率決定に役立つトンネル内気温を予測するシステムを付加した栽培管理支援アプリを開発し、実証する。そして、生産者間のデータ共有を促進し、産地強化につなげる。	R1	スマート農業

品目	研究課題名	内容	研究期間	担当
果樹	AIとドローンを活用した果樹の生育診断技術の確立	ドローンによる空撮映像とAIによる画像解析等の技術を組み合わせ、果樹における生育診断技術を開発し、果樹の安定生産に資するシステムを確立する。	H30～R2	果樹
スタチ みかん	地球温暖化に対応したブランドカンキツ新品種の開発	温暖化の影響を軽減する有望系統について、収量性、品質、貯蔵性、病害耐性などの栽培性を複製樹や現地試験において有効性を確認後、品種登録申請を行い、カンキツ産地の維持発展を図る	H31～R3	果樹
熱帯果樹	トロピカルフルーツ低コスト栽培技術の開発	温暖化の進行に伴う環境下において、果樹の生産性向上と高付加価値化を実現するため、パイナップル、マンゴー、レイシについて本県での最適な栽培作型を検討するとともに、ヒートポンプ等を用いた低コスト生産技術の開発に取り組む。	H31～R3	果樹
スタチ	7月安定出荷のための無加温ハウススタチ栽培促進技術の確立	ハウスすだちは、需要の高い7月中の出荷が求められている。無加温栽培のハウススタチについて、安定的に7月出荷できる栽培技術（水封マルチ、摘果、炭酸ガス施用等）について検討する。	H31～R3	果樹
ナシ	ブランドナシ産地の維持発展に貢献するオリジナル品種の育成	有望な育成系統を中心として、現在の主力品種である幸水、豊水を補完する品種を育成する。	H31～R3	果樹
ナシ	簡易な樹形によるナシ栽培の省力化	県内ナシ産地では、高樹齢化による樹勢低下から、計画的・戦略的な改植への取り組みを進める必要がある。直線的で簡易な新しい整枝により作業体系を再構築し、省力化を図る。	H31～R3	果樹
カキ	農家が売って作って儲かる新しい甘柿づくりの実現	味・外観とも優れる新品種「太豊」の特徴を最大限発揮するための高品質果実生産技術、早期成園化技術および貯蔵技術を検討する。	H29～R1	果樹
果樹	本県に適応する果樹品種の比較試験（系統適応性比較）	(独)農研機構果樹研究所が育成した品種の系統適応性試験を実施する。	S39～	果樹